

群 教 セ	G09 - 03
	令5.284集
	英語一高

# 高校英語における、自らの学びを振り返り、改善できる「自律した学習者」の育成

——知識の定着及び技能の向上を具体化するなりきりトークと自己調整学習を促すラーニング・ジャーナルの活用を通して——

特別研修員 斎藤 憂子

## I 研究テーマ設定の理由

高等学校学習指導要領（平成30年告示）では、「話すこと」の技能が〔やり取り〕と〔発表〕の二つの領域に分けられ、統合的な言語活動を通して、外国語でコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための言語活動を充実させることが示されている。また、令和5年度県立学校教育指導の重点によると、「一つの言語活動についても、生徒自身が見通しを立てたり振り返ったりする場面や、教員からのフィードバックをはさみながら、生徒が自分とは異なる考え方や適切な表現に気付けるようにするとともに、1時間の中や単元の中で繰り返し挑戦できる機会を設ける」とある。

研究協力校では、英語学習に対して自分自身の成長を実感しにくかったり、自分の意見や考えを話す際に活用できる語彙や表現が少なく限定的で、話すスピードが非常にゆっくりであったりする等の課題をもつ生徒の姿が見られた。そのため、知識の定着及び技能の向上を具体化し、目的や場面、状況に応じて表現する言語活動を繰り返しもつことができる仕組みづくりと自己調整学習を行いながら自身の学習に対する姿勢や資質・能力の変容に気づき、粘り強い学習のサイクルを継続できる生徒の姿を目指し、上記のテーマを設定した。

## II 研究内容

### 1 研究構想図

**目指す生徒像： 高校英語における、自らの学びを振り返り、改善できる「自律した学習者」**

新しい表現を使って話せるようになってきたし、WPMが増えてきている。もっと英語で話せるようになりたい！



知らなかった話題でも、英語で情報を読み取って、自分なりの意見を考えられた。次はもっとわかりやすく具体例も挙げながら伝えられるようにしたい！

#### 手立て① 知識の定着及び技能の向上を具体化するなりきりトーク

目的や場面、状況に応じてなりきる人物を変えながら、英語でやり取りを行う。



話すときに同じ表現ばかりになるし、なかなか言葉が出てこない。

自分の英語の力は本当に伸びているのかな？

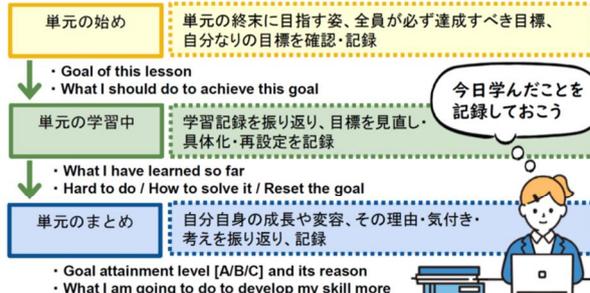


#### 生徒の実態

- 自分自身の成長を実感しにくい。
- 活用できる語彙が少なく限定的で、話すスピードが非常にゆっくりである。

#### 手立て② 自己調整学習を促すラーニング・ジャーナル

授業で作成した個人の成果物や学習時の気付きや考えを記録する。学習の記録を取るほか、単元の始め、学習中、終末の三つのポイントで学習の進行具合を確認する。



#### 教師の願い

- 授業を通して「できた！」という成功体験を積んでほしい。
- 未知の言葉を調べて自分の表現に活用し、表現できる内容や語彙を増やしてほしい。

## 2 授業改善に向けた手立て

生徒が自らの学びを振り返り、改善するためには、個別の学習成果を具体化し、自己調整する場面の設定が必要である。そこで、以下の二つの手立てを用いることとした。

### 手立て1 知識の定着及び技能の向上を具体化するなりきりトーク

設定された目的や場面、状況に応じてなりきる人物を変えながら、英語でやり取りを行う帯活動を設定する。授業前の準備として、生徒は事前に与えられた設定に沿った人物になりきり、話すために必要な表現を辞書や検索エンジン等を活用して調べ、話す内容を創作する。活動時には、三人組を作り、話し手 (Speaker)、聞き手 (Listener)、数え手 (Counter) と役割を変えながら、1分間のやり取りを行い、話し手の発語数 (Word Per Minute=WPM) を記録する。1st Roundの活動後、1分間の練習時間を設け、WPMを増やせるようにキーワードを確認してから2nd Roundの活動を行う。以上のサイクルを授業の冒頭に行い、一周目とする。次時にはなりきる人物を変え、同じ目的や場面、状況で二周目の活動を行う。新たに知識を得た表現と1分間のWPMの伸びをラーニング・ジャーナルに記録する。

### 手立て2 自己調整学習を促すラーニング・ジャーナルの活用

ラーニング・ジャーナルには、授業で作成したエッセイや音声、プレゼンテーション、スキットなど、個人の成果物を蓄積したり、学習時の気付きや考えを記録したりして、学習の進捗具合を確認するために活用できるようにする。また、目標予見、遂行統制、自己省察といった自己調整のサイクルを回すことができるように、単元の始め、単元の学習中、単元のまとめの三つのポイントでラーニング・ジャーナルを活用する。

- ①単元の始め：単元の終末に目指す姿、全員が達成すべき目標、自分なりの目標を確認・記録する。
- ②単元の学習中：学習記録を振り返り、目標を見直し・具体化・再設定する。
- ③単元のまとめ：自分自身の成長や変容、その理由・気付き・考えを振り返り、記録する。

## Ⅲ 研究のまとめ

### 1 成果

- なりきりトークを用いた表現活動について、「知らない単語や表現を調べるようになった」、「以前よりもすぐに話したい言葉が英語で思い付くようになった」など、多様な表現を用いて活動を行いたいと考えたり、表現できる語彙の増加を感じたりしている生徒の記述が見られた。
- なりきりトークを用いた表現活動を全16回行った平均WPM値は一回目が52.2語、二回目が59.0語となり、6.8語上昇した。また、活動初回のWPMの最高値が57.2だったのに対して、16回目には70.9まで上昇し、WPMの増加が見られた。
- 生徒がラーニング・ジャーナルに学んだことや考えを継続して記録しておくことで、教師は生徒がどのような思考をたどっているのかを知ることができた。学習内容が難しいと感じる生徒が多くいる場合は、次時に適切な支援を行うことができたり、生徒が自分なりに努力した点を見取る助けとなったりした。
- 高校入学時と第一学年二学期末をアンケートで比較すると、「授業に自ら取り組んでいる」と回答した生徒は56%から76%となり、自分自身の学習に主体的に関わっている生徒が増加した。

### 2 課題

- 新たに知った語彙を生徒間で共有させることはできたが、生徒が用いた表現の正確性を確認する時間をあまり設けられなかった。
- ラーニング・ジャーナルを個人の振り返りや自己調整としてだけでなく、ペアやグループで読み合ったりコメントを与え合ったりして、他者の学びや考えを自分の学びの参考にするなど、協働的な学びに活かせると更によい。

## 実践例

### 1 単元名 「Lesson 6 “In this Corner of the World”」

#### 2 本単元について

本単元では、漫画「この世界の片隅に」を題材に、戦時中の広島県呉市を舞台に一人の普通の女性が当時どのような生活を営んでいたのかについて取り扱っている。終戦から78年を迎え、戦争体験者の高齢化によりその悲惨さや恐ろしさを伝える人たちが減少しており、かつて日本が戦争により多くの被害を受け多くの生命が失われたことを知らない世代が増えている。本単元を通して、当たり前のように思える我々の平和な日常がいかに尊いものであるかを生徒は気付くことができる。また、「この世界の片隅に」から抜粋した場面の英文を読み、英語を使って伝え合う目的や場面、状況に応じて適切な会話を作り、登場人物になりきって自然なやり取りを続けることができるようになる。

以上のような考えから、本単元では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	「この世界の片隅に」の主人公すずや、他の登場人物になりきり、ある目的や場面、状況に応じた登場人物のセリフや物語の続きを考え、英語でやり取りをすることができる。	
評価規準	(1) 知識・技能 ① 現在完了進行形、関係代名詞（主格・目的格）、S+V+O（＝疑問詞節）を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ② 「この世界の片隅に」について、聞いたり読んだりしたことをもとに、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続ける技能を身に付けている。 (2) 思考・判断・表現 「この世界の片隅に」の登場人物のセリフや物語の続きを考え、やり取りをするために、教科書の内容を聞いたり読んだりして得た情報や考えを活用しながら、目的や場面、状況に応じて適切な会話を作り、伝え合っている。 (3) 主体的に学習に取り組む態度 「この世界の片隅に」の登場人物のセリフや物語の続きを考え、やり取りをするために、教科書の内容を聞いたり読んだりして得た情報や考えを活用しながら、目的や場面、状況に応じて適切な会話を作り、伝え合うことができるようにする。	
過程	時間	主な学習活動
つかむ	第1時	・「この世界の片隅に」の一部分を視聴し、登場人物の性格をつかんだり、教師の質問や教科書中のイラストから、背景知識を高めたりして、本題材の見通しをもつ。
進捗する	第2時 ～ 第5時	・「この世界の片隅に」が映画の映画と異なる点について理解し、その内容を整理して伝える。 ・主人公すずがどのような人物かについて理解し、すずの家族になったつもりですずに話しかける。 ・「夢」についてのすずと周作の対話内容について理解し、すずになったつもりで周作のセリフに返事をする。 ・「この世界の片隅に」が私たちに教えてくれることについて理解し、その内容を整理して伝える。
	第6時	・「この世界の片隅に」に描かれている場面や状況を読み取り、すずと周作のやり取りを考えて録画する。
	第7時	・すずとすずの家族が久しぶりに会ったらどのような話をするかを考え、そのやり取りを録画する。
まとめる	第8時	・撮影した動画を上映し、感想やフィードバックを伝え合う。

#### 3 本時及び具体化した手立てについて

本時は全8時間計画の第7時に当たる。教科書題材に関連して、主人公すずとすずの家族が久しぶりに会った場面を設定し、やり取りを行い録画することを目標として、次のように手立てを具体化した。

### 手立て1 知識の定着及び技能の向上を具体化するなりきりトーク

「あなたはなぜ元気がないのか」という質問について、戦争中で食べ物不足したり慣れない土地での生活に悩みを抱えたりしているずずになりきって、相手（ずずの旦那）を傷つけないように英語でやり取りを行う。1st Roundの活動後、1分間の準備時間を設け、enough food（十分な食料）、new place（新しい土地）、no friends（友人がいない）などキーワードを与え、2nd Roundに取り組みさせる。次時にはなりきる人物をずずの姪である晴美として同じ目的や場面、状況でやり取りを行い、WPMと新たに知識を得た表現をラーニング・ジャーナルに記録する。

### 手立て2 自己調整学習を促すラーニング・ジャーナルの活用

前時に撮影したずずと周作のやり取りの動画を見直し、前時の活動を振り返るとともに、本時のやり取りの改善方法を考える。よりよいやり取りを行っている動画の撮影を目指し、ずずとずずの家族とのやり取りを何度も撮影し、振り返り、納得できるやり取りの動画を提出する。学習時の気付きや考えたこと、この時間で達成できたことや課題、自分なりに工夫した点などを記録する。

## 4 授業の実際

### (1) 知識の定着及び技能の向上を具体化するなりきりトーク

多様な視点や立場から様々な人物になりきって1分間話し続けることができるように、目的・場面・状況を設定した。その際、目的・場面・状況が教科書の学習内容に関わるものとなるように設定した（表1）。目的・場面・状況はある授業の冒頭とその次の授業の冒頭の二時間同じとするが、なりきる人物を授業ごとに変え、同じ目的・場面・状況でも、内容や表現の変化に気付き、様々な語彙に触れられるようにした。

生徒は事前に話す内容を考えてなりきりトークのシートを入力する。授業時は毎時間座席を一つずつ移動して着席し、毎回異なる生徒で三人組を形成した。生徒は話し手（Speaker）、聞き手（Listener）、数え手（Counter）と役割を変えながら、用意した原稿を見ないで1st Roundの活動を行った（図1）。Counterはワードカウンターを使いWPMを数えて、Speakerは自分のWPMを記録した。1st Roundの活動終了後、更にWPMを増やせるように、1分間の準備時間を設けて使えそうなキーワードやフレーズを確認したり、原稿を見直したりした。その後2nd Roundを行い、新たに知識を得た表現を記録した（表2）。

表1 なりきりトークの場面設定

<p><b>Topic 4: Suzu's Marriage Life</b>  <b>Listener:</b> You don't look well. What's the matter?  <b>Speaker:</b> _____.</p> <p><b>Situation:</b> Speakerがなんだか元気がなさそうです。相手を傷つけないように配慮しながら、なぜ様子が変なのか、理由を添えて答えましょう。</p> <p><b>第7回</b>          You are Suzu. You've just moved to a new place and started a new life, so you don't have any friends and you don't get used to it. You are chatting with Shusaku, your husband.</p> <p><b>第8回</b>          You are Harumi, Suzu's niece. Because of her mother's divorce, she comes back to her mother's house in Kure, and misses her big brother who lives in Hiroshima. She always plays by herself. You are chatting with Suzu.</p>
---



図1 活動の様子

表2 なりきりトークの記録

話す予定の表現	WPM		新たに知識を得た表現
Well, I don't mean to hurt you, but I'm feeling depressed because I just moved to a new place and I'm still not getting used to it. It's hard because it's my first time to live in a different place and there are a lot of things I have to learn. I get up early in the morning to go to the well to get water, cook dinner for everyone, hang the laundry out to dry, and do many other things. Maybe I just get stressed easily in the last few days. I want to get used to this life.	1st Round	40	I'm still not getting used to it. まだ慣れない It's my first time to ... …するのが初めて well 井戸 hang the laundry out 洗濯物を干す
	2nd Round	62	

(2) 自己調整学習を促すラーニング・ジャーナルの活用

①単元の始め：単元の終末に目指す姿、全員が達成すべき目標、自分なりの目標を確認・記録

第1時には、生徒は「この世界の片隅に」の一部を視聴して登場人物の性格を捉え、映画を見て分かったことや第二次世界大戦についてすでに知っていることなどを共有した。また本単元のまとめとして行う言語活動を捉え、自分なりにどのように取り組んでいこうと思うかをラーニング・ジャーナルに記録した(表3)。

表3 「単元の始め」の記録

単元の始め	生徒A	生徒B	生徒C
What I should do to achieve this goal	スキットで、ずずのおっとりした性格や周作の優しい性格を表現できるようにする。	戦争中の苦勞を理解し、自分の言葉で相手に分かりやすく伝えられるようにする。	戦時中のストーリーを理解し、家族のありがたみを感じられるようなスキットを演じられるようにする。

②単元の学習中：学習記録を振り返り、目標を見直し・具体化・再設定し、記録

第2時から第5時では、教科書の内容から情報や考え、詳細などを理解し、そこから読み取った情報を活用して表現し合う活動を行い、学んだことをラーニング・ジャーナルに記録した。教科書の内容理解が進んだ単元の途中段階で、これまでの記録を振り返り、再度目標を見直し、より具体化し、再設定した(表4)。第6時から第7時では、「この世界の片隅に」に描かれている場面やその後の場面を想像し、ペアでやり取りを行い撮影した動画を見返しながら、よりよい動画を撮影できるように試行錯誤した(図2)。



図2 動画を見返す様子

表4 「単元の学習中」の記録

単元の学習中	生徒A	生徒B	生徒C
Hard to do How to solve it Reset the goal	ずずのabsent-mindedな性格を英語で伝えるのが難しい。わかりやすく伝えるように簡単に言い換えて表現を工夫する。	戦争中の苦勞をスキットにどのように入れたらよいか悩んでいる。食べ物が少なく工夫をこらしていたことを入れられるようにする。	家族を實際失ったことはないので、気持ちを想像することが難しい。「家族のありがたみ=当たり前への感謝」を演じられるようにする。

③単元のまとめ：自分自身の成長や変容、その理由・気付き・考えを振り返り、記録

第8時では、撮影したパフォーマンス動画の上映会を行い、互いに評価しながらフィードバックを与え合った。また、本単元全体を振り返り、本単元の学習前後の考えを比較させることで、成長や変容の自覚を促した(表5)。

表5 「単元のまとめ」の記録

単元のまとめ	生徒A	生徒B	生徒C
Goal Attainment level [A/B/C] and its reason	A ずずの性格が伝わるように、スキットを考えることができたと思う。おっとりしているずずが周囲の人たちに愛されていることも伝えられてよかった。	A 戦争中は苦勞ばかりと考えていたが、当時の人々の生活の工夫も理解できた。工夫して生活する様子をスキットに入れて、ずずの生活の知恵を伝えることができたと思う。	B 戦時中の大変さを伝える話によく映画になるが、この映画は当たり前前の暮さを伝えたかったと分かった。だが、それをスキットで演じるのは難しくもっとシンプルにスキットを作るべきだった。

5 考察

(1) 知識の定着及び技能の向上を具体化するなりきりトーク

生徒はなりきりトークを用いた表現活動を通して、多くのクラスメイトと活動を行うことができた。繰り返し表現活動を行うことで話すことへの抵抗感が減り、以前よりもWPMが増えた。また自分以外の人物になりきることで、様々な表現を用いて表現できるようになった。

(2) 自己調整学習を促すラーニング・ジャーナルの活用

ラーニング・ジャーナルを用いたことで、授業に自ら取り組んでいると感じている生徒の割合が向上した。どのように学習に取り組んでいきたいかを考える機会を与えたことは、主体的に学習に取り組む態度を育成するのに効果があったと考える。ラーニング・ジャーナルを個人の学習記録の振り返りや自己調整としてだけでなく、他者の学びや考えを自分の学びの参考にするなど、協働的な学びに活かせると更によい。

〈参考〉ラーニング・ジャーナルの項目例（本単元の実践例より）

Lesson 6 In this Corner of the World		Image / What I have already known about this lesson			
単元の 始め	My Goal of this lesson What I should do to achieve this goal			教科書の内容から「この世界の片隅に」の特徴、主人公の性格、映画が教えてくれることを読み取り、それを活かして「この世界の片隅に」の登場人物のセリフ、物語の続きを考え、やり取りをする。	
毎時間の 記録	Date mm/dd 授業日	Today's task	What I learned / Progress (Put a link if it is possible)	Self-Check [A/B/C]	Comments / Questions
1		学習課題の理解、見直しを立てる			
2		[Part 1] 「この世界の片隅に」がほかの映画と異なる点を見つけた。クラウドファンディングが必要なプロジェクトを想像して説明する。			
3		[Part 2] 主人公がどのような人物であるかを読み取る。憲兵が去った後、すずの家族になつたつもりですすずに話しかける。			
4		[Part 3] 「夢」についてのすずと周作の考えを理解する。すずになつたつもりで、周作のセリフに返事をする。			
5		[Part 4] 「この世界の片隅に」が教えてくれることを読み取る。日常生活の中で幸福を感じるタイミングについて話す。			
6		すずと周作とのやり取りを録画し、すずとすずの家族とのやり取りを考える。			
7		すずとすずの家族とのやり取りを録画する。			
8		動画を視聴し、互いに評価し合い、単元全体の学習を振り返る。			
単元の 学習中	Self-Monitoring	What I have done so far			
		Hard to do How to solve it Reset the goal			
単元の まとめ	Goal attainment level [A/B/C] and its reason				
	What I am going to do to develop my skill more				
Teacher's Comments					